

坂元彦太郎先生 追悼

岡山での坂元先生

秋山 和夫

先生は、岡山へは二回に亘ってご赴任されてい  
る。第一回は昭和十八年四月、岡山師範学校女子部  
長としてであり、昭和二十年十一月、大阪第一師範  
女子部長にご栄転になる二年余の期間。第二回は、  
文部省初等教育課長から、昭和二十四年六月、岡山  
大学教授、教育学部長（三十一年十月まで）として

のご着任である。昭和三十三年三月、お茶の水女子  
大学教授にご栄転になるまでの約九年間である。  
昭和二十四年は新制大学の発足した年であり、新  
制大学の運営、内容の方向づけ、充実が求められて  
いた時期である。一方、教育現場においては、新し  
い教育の方向、内容、指導法が模索されていた時期

でもあった。この時期に先生は、大学行政は勿論のこと、教育現場の指導にも情熱を燃やされた。

先生が教育現場の指導と関わって主張、実践されたことは次のようなことであった。新教育理論に基づく新しい学習指導法の確立、新教育科目である社会科教育の内容と指導法の樹立、視聴覚教育、へき地教育、特殊教育、幼稚園教育の普及、充実、定着などのお仕事であった。

私は、昭和二十七年三月大学を卒業して、当時の岡山大学教育学部長坂元彦太郎先生に就職のための面接を受けた。先生は開口一番「あなたは教育学を専攻されて教育のことがわかりますか」と質問された。教育学は教育の基本を支える学問であると信じて研鑽してきた私には、その質問は大きなショックであり、それに対してお答えすることができなかった。「小学生を教える決心がいたらご連絡して下さい」ということで面接が終わった。結局、岡山大学教育学部附属小学校へ教諭ということで採用

していた。その後何年かたって、先生のご質問の意味を私なりに把握することができた。

先生の官舎が附属学園のすぐそばにあったせい、先生が初等教育をこよなく愛されたせい、恐らくその両方であったと思われる——附属小学校、幼稚園には、たびたび足を運ばれた。時には、附属小学校、幼稚園の教官の研究授業、保育を参観して下さり、いろいろと貴重なご教示をいただいたこともある。又、附属の教官室にもよく見えて、教官の質問に対しても気軽にお答え下さっていた姿、が眼に浮かぶようである。

幼稚園教育に限って言えば、昭和二十四年に設置された岡山大学教育学部に、同年から幼稚園教諭免許状取得のための課程認定を文部省に申請された。更に、岡山県立幼稚園教員養成所の設置を岡山県教育委員会に働きかけて、岡大教育学部が前面協力するという形で設置にこぎつけられた。実質的には、岡大教育学部に付設する形で運営され、その所長を

つとめられた。

また、第一回全国国立幼稚園研究大会を、岡山大学教育学部附属幼稚園と附属学園を会場として開催されたのも坂元先生であった。この会で「保育内容（特に自由遊び）について」と題する基調講演を先生御自らなされている。参加者は九百名で県外から三百名の参加を得ている。当時としては大変な盛況であったといえる。

先生はこれらの点について次のように述べられている。

「(岡山) 県下の幼稚園も戦前以上に復旧し、養成機関も、県立のものが大学内に設置されたり、岡山大学教育学部でも全国にさがかけて卒業生に幼稚園教諭免許状の取得の道を開いたり、そういうことに関係を持ちながら、当時の幼稚園教育の振興にも関心をもった私であった」(坂元彦太郎『岡山の幼児

教育と私』岡山県保育史』フレールベル館 昭和三十九年)

これは先生の控え目な追憶であるが、戦後岡山の幼稚園教育の振興、充実は先生のお力によるものが大きかった。

私は先生からいろいろと貴重なご教示をいただいたり、お叱りもいただいた。その中で教育とは何であるかを先生から様々な場面で教わったことは、現在の私の心の糧かたとなっている。

本日、私は岡山大学停年退官に当たっての最終講義を行った。岡大の就職面接ではじめて先生におめにかかり、私の最終講義の夜、坂元先生をおしのびする文章をしたためているというのも、先生とのえにしの深さを思わざるを得ない。坂元先生有難うございました。先生のご冥福をお祈りいたしています。

(元・岡山大学)